

『証の連鎖をつなぐもの』 ヨハネ1:43-51

- 1:43 その翌日、イエスはガリラヤに行こうとされたが、ピリポに出会って言われた、「わたしに従ってきなさい」。
- 1:44 ピリポは、アンデレとペテロとの町ベツサイダの人であった。
- 1:45 このピリポがナタナエルに出会って言った、「わたしたちは、モーセが律法の中にしるしており、預言者たちがしるしていた人、ヨセフの子、ナザレのイエスにいま出会った」。
- 1:46 ナタナエルは彼に言った、「ナザレから、なんのよいものが出ようか」。ピリポは彼に言った、「きて見なさい」。
- 1:47 イエスはナタナエルが自分の方に来るのを見て、彼について言われた、「見よ、あの人こそ、ほんとうのイスラエル人である。その心には偽りが無い」。
- 1:48 ナタナエルは言った、「どうしてわたしをご存じなのですか」。イエスは答えて言われた、「ピリポがあなたを呼ぶ前に、わたしはあなたが、いちじくの木の下にいるのを見た」。
- 1:49 ナタナエルは答えた、「先生、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」。
- 1:50 イエスは答えて言われた、「あなたが、いちじくの木の下にいるのを見た、わたしが言ったので信じるのか。これよりも、もっと大きなことを、あなたは見るであろう」。
- 1:51 また言われた、「よくよくあなたがたに言うておく。天が開けて、神の御使たちが人の子の上に上り下りするのを、あなたがたは見るであろう」。

●序論

バプテスマのヨハネから始まり、イエスさまこそ神の子、との証が重ねられてきました。

:29 「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」。

:33 「…わたしをおつかわしになったそのかたが、わたしに言われた、『ある人の上に、御霊が下るとどまるのを見たら、…わたしはそれを見たので、このかたこそ神の子であると、あかしをしたのである』」。

そして先週、その証が、次の人次の人に連鎖し、次の人の救いの物語として紡がれていくことを見ました。

そして、さらに「その翌日」の情景が、今日お読みした物語に記されています。

ここにも、今日のタイトルに上げたように「証が連鎖している」様子がわかります。そしてこの証しは、イエス・キリストとの出会いを通してつなげられているのです。それが今日の結論です。

:41 …「わたしたちはメシヤ（訳せば、キリスト）にいま出会った」。

これはパウロの言葉の通りでもありますね。

ローマ10:17 したがって、信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。

●本論

I. ピリポの証を見る

1:43 その翌日、イエスはガリラヤに行こうとされたが、ピリポに出会って言われた、「わたしに従ってきなさい」。

1:44 ピリポは、アンデレとペテロとの町ベツサイダの人であった。

ピリポについての記述は短い。しかし強力です。突然のイエスさまの「従ってきなさい」との言葉で唐突な印象ですが、短くその背景が記されています。

彼は、アンデレとペテロと同じ町の人との説明がありました。アンデレ、そしてペテロを通してピリポはイエスさまのことを聞いていたのだらうと思われます。

そしてここにもイエス・キリストを中心とした出会いと証の連鎖があります。

そしてその彼が次に、ナタナエルと会って（新改訳では、「見つけて」）イエスさまのことを証しています。そうしてさらに、次につながって行っています。

そこにシンプルなイエスさまとの出会いがもたらす、シンプルな喜びの連鎖がわかります。ここにイエスさまいるから！という感動表現です。

イエスさまとの出会いと経験が、アンデレやピリポをを動かしたのです。

そう聞くと、わたしたちももっと、イエスさま経験したいと思いませんか？

II. ナタナエルの証を見る

1:45 このピリポがナタナエルに出会って言った、「わたしたちは、モーセが律法の中にしるしており、預言者たちがしるしていた人、ヨセフの子、ナザレのイエスにいま出会った」。

旧約聖書の預言者たちもそのことを記し、みなが待ち望んできた、メシアと出会った！…と興奮気味に証言したことでしょう。

しかし、聞いたナタナエルは受け入れるどころか、否定しました。

1:46 ナタナエルは彼に言った、「ナザレから、なんのよいものが出ようか」。

「ナザレのイエス」その表現のルーツはルカによる福音書に見ることができます。

ルカ1:26-27 …御使ガブリエルが、神からつかわされて、ナザレというガリラヤの町の一処女のもとにきた。この処女はダビデ家の出であるヨセフという人のいいなづけになっていて、名をマリヤといった。

メシアの誕生についての預言は、ベツレヘムでの村で、まさにイエスさまはそこでお生まれになり、のちに両親と共に故郷ナザレに戻ってそこで育ったのです。

ナタナエルの物言いは、まっすぐな預言へのこだわりからでした。そんな彼をピリポは、実際に会ってもらった方がいい、とイエスさまのもとに連れて行ったのです。

そこでナタナエルが耳にしたイエスさまの言葉は衝撃でした。

1:47 イエスはナタナエルが自分の方に来るのを見て、彼について言われた、「見よ、あの人こそ、ほんとうのイスラエル人である。その心には偽りが無い」。

1:48 ナタナエルは言った、「どうしてわたしをご存じなのですか」。イエスは答えて言われた、「ピリポがあなたを呼ぶ前に、わたしはあなたが、いちじくの木の下にいるのを見た」。

”イエスさまにすべて知られている” いや「知っていただいている」という不思議と驚きを経験しています。

ただ断片を切り取って当てられるのではなく、その心と人格そのものを、そして自分の歩みをも知っていただいたからです。

「いちじくの木の下にいた」こと、それはイスラエルの人々にとって、信仰的な祈りと神さまのことばの思索をするという姿でした。

信仰を語る一人の牧師がこういう風に言われました。

「本当の意味で『神を知る』とは、わたしが理解することではなく、”神がわたしを知っていてくださるという関係”です」と。

最初ナタナエルは、自分もてる聖書知識をもって「ナザレから、メシアなど出るはずない（ベツレヘムと聖書は預言している）」という風に否定しました。

そんな彼も、イエスさまのもとに行き、イエスさまに知っていただいていることを聞くことで変えられていったのです。

1:49 ナタナエルは答えた、「先生、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です」。

この告白は、連鎖をさかのぼり、バプテスマのヨハネの証しにたどり着きます。

:33 「…わたしはそれを見たので、このかたこそ神の子であると、あかしをしたのである」。

さて、私たちの信仰は、「イエスさまに知っていただいている」というところから、本当の意味で安心できます。そしてその不思議をすなおに感謝できるのです。

人生経験、自分のこうなってほしいという望みや自分が考える正しさや方法、さらに聖書知識の積み重ね、多くのものをもって神さまに迫ります。それがしばしば祈りであり、こうしてください。こうでなければ、こうあってください…などと祈ります。

しかし、思い通りにならない状況や答えに戸惑い、いらだつことも経験します。

安心してください。イエスさまは、そんなわたしたちをも知っていただいています。

自分が知ってる…ではなく、知っていただいている…という神さまとの関係の中でこそ、言うことができます。そのすべてをイエスさまにおゆだねすることだと。

1ペテロ5:6-7(新改訳)ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

そこで本当の意味で、イエスさまを知ることができます。「あなたこそ、まことに神の子です」と。そしてこうも言われているのです。

1:50 イエスは答えて言われた、「あなたが、いちじくの木の下にいるのを見たとき、わたしが言ったので信じるのか。これよりも、もっと大きなことを、あなたは見るとであろう」。

Ⅲ. イエスさまの証を見る

1:51 また言われた、「よくよくあなたがたに言うておく。天が開けて、神の御使たちが人の子の上に上り下りするのを、あなたがたは見るとであろう」。

それは、創世記にあるヤコブは、兄エサウをだまして長男の祝福を奪い、結果、兄をおそれて家を逃げ出しました。そんな逃亡の旅路の中で、野宿で夢を見ます。

創世記28:12 時に彼は夢をみた。一つのはしがが地の上に立っていて、その頂は天に達し、神の使たちがそれを上り下りしているのを見た。

そこで主が彼の傍に立ち彼に祝福し、そしてこう約束しています。

創世記28:15 わたしはあなたと共にいて、あなたがどこへ行くにもあなたを守り、あなたをこの地に連れ帰るであろう。わたしは決してあなたを捨てず、あなたに語った事を行うであろう」。

ヤコブは決してほめられた人ではない、罪を犯した。しかし、そんなヤコブのすべてを神さまは知っていただきました。

そしてそんな彼と共にいてくださると言われたのです。

そこに赦しがあり、祝福がある。これは私たちがいただいている福音でもあります。

○最後に

ナタナエルは、だれから見ても、とても熱心でよい信仰者でした。

しかし、彼の知識と認識が彼を邪魔をした、いや限界があったと言っているでしょう。

人は、どんなに”自分が知り、そして努力しても”神を知ることはできません。しかし、神のひとり子イエス・キリストを通るならば、神のもとに行くことができる、それが聖書の福音です。

なぜか、神さまは、わたしたちの罪の贖いとしてイエス・キリストを十字架で犠牲にして、神さまの側からその道を備えてくださったからです。

ローマ5:8 しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。

今、キリストが神さまとわたしたちの間の階段となってくださっています。だから、「…天が開けて、神の御使たちが人の子の上に上り下りするのを、あなたがたは見る…」というのは、また祈りの祝福を表しています。

イエスさまのお名前によって祈るとき、それを天使が運ぶ。そんな祈りが応えていただけるという祝福を表しています。

現代を生きるわたしたち一人一人も、神さまに知っていただき、そして教会に導かれ救われています。

わたしたちに与えられているこの祈りと、その祈りの応えを受け取ることこそが、わたしたちの証しとなり、その証は、自分をそして周囲の人々がキリストに気づかせる証しとなるでしょう。

この祈りの連鎖はキリストを中心にして、今も世界中に広げられているのです。